

6. 学生スタッフの班活動

ボランティア・NPO 活動センターでは、学生スタッフが日常的に活動しています。センターの活動や認知度を高めたり、センターの環境を整えたり、また、コーディネーションのスキルアップなどを目的に、班に分かれて活動しています。

2023年度は年度当初から活動制限が撤廃された中での1年となり、コロナ禍の環境に慣れた学生たちにとっては逆に困惑する事もたくさんありました。そんな中で活動をよりよいものへとするために、様々な工夫を凝らして班活動に取り組みました。

班 名	コーデ班（深草）
趣旨・目的	学生スタッフのコーディネーション力を向上させる。
班メンバー	大原健太郎（経営4） 伊野涼雅（政策4） 松本裕生（政策4） 鄭 叡智（国際4） 千葉圭喜（文学4） 影裡天音（経営3） 馬場康世（文学3） 太田早紀（経済3） 掛川大輔（経済3） 加藤秀大（経済3） 長堂佑志（法学3） 和田晴空（文学2） 南部雄斗（文学2） 田渕勝士（法学2） 三嶋千桜（文学1） 松浦慎悟（文学1） 村山結子（文学1） 凌 斯維（文学1） 韓 孜墨（文学1） 田中智樹（経済1） 宮田千穂（法学1） 原島 翼（法学1） 田島優芽（政策1） 中西晴空（政策1） 宮部汰晴（政策1） 今野優花（国際1） 井上陽香（心理1）

1. 活動目標

来室者に対して適切なボランティアコーディネーションが実施できるよう、学生スタッフのコーデ力の向上をサポートする。

2. 活動内容

【模擬コーデ】

- ・前期に模擬コーデ週間を設けた他、学生スタッフミーティング後にグループに分かれ模擬コーデを行なった。ボラセン日誌に付箋でコメントを書いてもらった。

【コーデ力向上プログラム】

- ・昨年同様、前期と後期に「Project C」と題し、コーデの基本的な流れを確認し、学生スタッフミーティングで共有した。

【コーデ日誌作成】

- ・白紙で自由記載の形から、瀬田の日誌を参考に日誌のフォームを作成した。

【コーデしやすい環境作り】

- ・情報シートだけのものや人目につきにくいチラシが見やすいようにポップを作成した。
- ・シフト中にすることを学生スタッフミーティング内で改めて確認した。

【その他】

- ・班プレゼンの班紹介パワポ作成、シフト表、名札作成、貸出傘の増量、分野別ファイルの整理整頓

3. 目標達成度

【模擬コーデ】

前期は、模擬コーデのコメントをコーデ班内で共有したが、フィードバックが十分ではなかった。

【コーデ力向上プログラム】

昨年のをブラッシュアップし、クイズ形式にして集中して取り組んでもらうことができた。

【コーデ日誌作成】

チェックリストにしたことで、シフト中にしなければいけないことが明確になり、意識が高くなった。

【コーデしやすい環境作り】

- ・班内で一つポップを作成し、それを参考にシフトの時間を使ってみんなにも作成したことにより、ボランティアに対する知識向上につながった。

【その他】

- ・傘を増やしたため、貸し出せる人が増加した。

4. 学んだこと・今後の課題

昨年に比べ班員の数が増えたため、従来の活動方法を少し変更し、少人数のグループでそれぞれの取

組みを進める形にした。班員が活動に深く関わりやすくなり、班内の交流にもつながったが、活動が滞った際のサポートが課題となった。

班 MT を参加しやすいように昼休みに対面で行ない、はじめにアイスブレイクを取り入れるなど、新スタが発言しやすい環境が作れた。来年度は、新 3 回生が少ないため今年度以上に新 4 回生が班活動全体のサポートを行なう必要があると考えてい

る。

またコーデ力向上プログラムでは参加していない新スタッフへのフォローが十分でなかったので、呼びかけを工夫し、参加率を上げる事や、欠席者のフォローが今後の課題点である。

〈報告者：掛川 大輔〉

班 名	広報班（深草）
趣旨・目的	龍大生と教職員に対して龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターが行なっている活動を、各種広報媒体を通して認知してもらう。
班メンバー	井関萌乃（文学4） 岡 智浩（文学4） 喜多真央（文学4） グエンゴクトウツク（文学4） 馬越友梨（文学3） 的場美佳（文学3） 富銅柊介（文学3） 小木曾圭太（経済3） 八田知紗（経済3） 小倉未椰（経営3） 長峰拓未（経営3） 奥田真史（政策3） 安原恭太郎（文学2） 松田理莉緒（経済2） 野田怜臣（法学2） 兒嶋 愛（政策2） 海山空澄（文学1） 黒川朋生（文学1） 六波羅空（文学1） 山中優鈴（文学1） 渡邊颯真（文学1） 岡崎祐太（経済1） 溝端 唯（経済1） 和田健伸（経済1） 平川育海（政策1） 二見竜午（国際1） 田中あかり（心理1） 土田花実（心理1）

1. 活動目標

深草広報班は学生と教職員に対してボランティア・NPO 活動センターの活動を認知してもらうために、広報紙や SNS で広報活動を行なう。

2. 活動内容

【広報誌『ボラゴン』】

年に 2 回の発行。

【SNS】

X と Instagram による活動の発信を週1回更新で実施した。

【ボラセンタイムズ】

年 2 回の発行。

【その他】

「ボランティアマップ」は更新せず、代わりに、「アクティブ班のボランティアへ行こう！」と合わせて Google マップのピン留め機能を使ったデジタル版のマップを制作した。

3. 目標達成度

【広報誌『ボラゴン』】

傘の貸し出しの際に、広報誌『ボラゴン』を配る

ことを学生スタッフに呼び掛け、前期号の400部を配り切った。

後期号は、予定より 1 ヶ月遅れの発行となった。

【SNS】

X と Instagram の週 1 回投稿を実施。

Instagram では、ストーリーの週 1 回投稿も行った。内容としては、センターの活動紹介以外にも学生スタッフのボランティア体験談等も紹介した。

【ボラセンタイムズ】

センターの活動を中心に発信した。

【その他】

アクティブ班とのコラボとしてウェブ上のボランティアマップを制作中。

4. 学んだこと・今後の課題

【学んだこと】

アクティブ班や瀬田とのコラボで広報の可能性が広がった。

Canva の勉強会が大変好評だった。

【今後の課題】

全体的にスケジュールが遅れてしまうことが多かったため、スケジュール管理が課題である。

新スタッフに SNS の投稿を経験してもらうために、実際の担当を振り分ける前の夏期休暇に SNS 更新体験（投稿文案を作成する）を行なったが、夏期休暇によって投稿内容を考えることが難しいとい

う意見が出たため、実施時期を考慮し直したい。

〈報告者：小倉 未椰〉

班 名	アクティブ班（深草）
趣旨・目的	センターの活発化を主な目的とし、ボランティア活動への参加を通じ、学生スタッフのコーディネーション力と意識の向上を図る。また様々な情報をポップとしてセンターに貼り出すことで、来室者や学生スタッフへの情報共有を促す。
班メンバー	崇田ゆきの（文学4） 西村柊哉（文学4） 松本航紀（経営4） 神月麻伽（文学3） 山下陽菜乃（文学3） 榎 海斗（法学3） 片岡 悠（法学3） 鶴田優斗（法学2） 小窪真澄（法学2） 西林勇貴（政策2） 内田美羽（国際2） HAOSHUXIN（文学1） 佐藤莞汰（文学1） 佐藤美月（文学1） 内林克樹（経済1） 上地史紘（経済1） 安居直歩（経済1） 赤木まなか（法学1） 井狩咲希（政策1） 松村侑祐（政策1） 吉岡大瑛（政策1） 安場ころろ（国際1） 小椋友里圭（国際1） 井田あい子（心理1）

1. 活動目標

【新規ボランティア参加】

学生スタッフがコーディネーションを行なう際には、ボランティア経験の有無や活動を通じて学んだこと、募集团体の想いを理解していることが大切である。そのため班員や他班の学生スタッフにボランティア活動への参加を呼びかけ、その情報や体験談を共有する。また来室者によりボランティア活動に参加してもらうために、SNSでの広報やポップ作りに励む。

【班活動の記録媒体の作成】

班で参加したボランティア情報や学生スタッフの活動情報を、インタビューして活動内容をまとめ、写真やコメントなどと共にアルバムに記録する。このアルバムの存在を学生スタッフに周知する。

【ポップ作り】

活動中の写真や活動カレンダー等の様々な情報をポップとして掲示し、来室者に活動をイメージしやすくする。

2. 活動内容

【新規ボランティア参加】

班員で4～5名のグループを作り、新規ボランティアに参加し、活動後はLINEグループや学生スタッフミーティングで情報共有を行なうと共に、アルバムの作成やポップ作りも行ない、コーディネー

ションに役立つようにした。

【班活動の記録媒体の作成】

活動後、各グループで感想や写真等をまとめた。

【ポップ作り】

季節のポップの他に、ボランティア募集や活動報告・企画の情報などをまとめて掲示した。

【広報班とのコラボ】

広報班と合同ミーティングを開催。アクティブ班がボランティア情報をまとめて広報班に情報共有し、SNSなどを使って広報した。

3. 目標達成度

【新規ボランティア参加】

グループ毎に活動情報をアルバムや学生スタッフミーティングなどで共有する予定だったが、天候等の関係で活動できなかったグループもあった。

【班活動の記録媒体の作成】

グループ毎に参加した新規ボランティアの情報をまとめた。作成ができていないグループが出てしまった。

【ポップ作り】

季節のポップの他に、ボランティア募集や活動報告・企画の情報などを掲示し、随時更新した。

【広報班とのコラボ】

過去に参加したボランティア情報を広報班に共有したが、最新ボランティアの情報は共有に遅れがあった。

4. 学んだこと・今後の課題

【新規ボランティア参加】

活動末のグループへの活動促しやミーティングでの進捗状況の確認、具体的な期限を決めた方がよかった。

【班活動の記録媒体の作成】

アルバム認知度を上げることを目標にしていたが、口頭説明のみだったので、工夫が必要だった。

【ポップ作り】

季節のポップ以外の掲示も行ない、企画の進捗報告などが一目でわかるようになり、コーデする際に役立った。

【広報班とのコラボ】

LINE グループでの情報共有のみだったので、スケジュールを明確化するなどの準備が必要だった。

〈報告者：神月 麻伽〉

班 名	コーデ班（瀬田）
趣旨・目的	学生スタッフが授業の空きコマにシフトを組み、来室者へボランティアの紹介・情報提供を行なうことを「コーデ」と呼んでいる。そのコーデ時間の管理や企画などを通して学生スタッフのボランティアコーディネーション力向上のサポートをする。他の班とは違い、完全に学生スタッフに対して働きかけ、普段のコーディネーションをより快適に、より有意義なものにできるように整備する。
班メンバー	中西亮太（社会4） 亀田暖人（社会3） 川口克基（社会3） 石川拓海（先理3） 今村瑞季（社会2） 石河大翔（先理1） 久保陽菜里（社会1） 造田睦己（先理1） 高井晴太郎（社会1） 野尻奈和美（社会1） 橋本怜垂（社会1） 牧村恵里（社会1）

1. 活動目標

コーデ班から学生スタッフ全員にアプローチして積極的に協働することで、学生スタッフ全員がコーデ中により主体的に取り組めるようにする。

2. 活動内容

(1) 定例活動

①前期と後期におけるコーデシフトの調整

後期はグーグルフォームを使って入りたいコマを聞いた。また、昼休みのコーデを開始した。

②コーデ日誌の管理（ページ追加等）

(2) 計画した活動

①コーデについて、学生スタッフ全体で話し合う時間をとる

→8月25日の学生スタッフミーティングでグループごとにコーデ時間の使い方について考えてもらった。コーデシフトのメンバーで互いのボランティア経験について話す、新聞を読むといった意見が出た。

②模擬コーデ週間の実施

→模擬コーデを意識的に行なう「模擬コーデ週間」は実施できなかった。その代わりとして後期の

12月後半から1月中旬にかけて後期コーデについての振り返りを実施した。シフトのメンバーでコーデ中にしたことを確認したり改善点を考えてもらった。

③コーデ日誌の改良

→シフトごとに1ページ書いていたコーデ日誌を、一日ごとに完結する様式にした。模擬コーデについての感想を書き込むスペースやシフト中にやったその他のこと（コーデで普段やらないこと（新聞や本を見たことを記す、チラシの見出し作り、学生スタッフ企画のお手伝い）という項目を増やし、遅刻者や欠席者の項目を減らすなど日誌に書くことを変更した。

(3) その他の活動

コピーしたチラシを更にコピーすると読みにくくなるので、チラシの原本は情報シートと一緒にして保管するようにしたり、廃棄方法を変更した。

3. 目標達成度

予定していた模擬コーデができなかったが、コーデについて考える機会を設けることにより学生スタッフ全員がコーデに向き合いやすくなるようにした。しかし、振り返りでは「模擬コーデをやる気

なれなかった」「来室者が来ないので暇な時間が増える」といった意見が出た。

こういった点から、学生スタッフがコード中により主体的に取り組めるような働き掛けは十分ではなかったといえる。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・シフト中にやることが見つからず時間を持て余している人も多いため、日誌に記載している項目以外で何をやるかを明確に示したり、日誌の項目を増やしたりする必要があると考える。
- ・班活動全般においてスケジュール管理が上手くい

かなかった。これからはコードのシフト管理や模擬コード週間をいつ行なうか、事前に決めておくようにしたい。

- ・学生スタッフ全体へのアプローチをより積極的に行ない工夫すべきだった。
- ・来室者を増やすことがみんなの意欲を向上させることにもつながると思うため、コード班だけではなく学生スタッフ全員で、センター利用者を増やすための方策を考えていきたい。

〈報告者：今村 瑞季〉

班 名	環境・整備班（瀬田）			
趣旨・目的	センターの環境を整備する事で、学生スタッフの活動の円滑化、及び来室者の快適な利用を目指す。			
班メンバー	深木真人（社会4） 宇野姫愛（社会2） 澤 彩佳（社会1）	堀井涼花（農学4） 土屋朝揮（農学2） 相馬大耀（農学1）	小池日和（社会3） 橋本湧生（社会2） 中島駿介（先理1）	幸山悠太（社会3） 小野日楓（社会1） 林伸次郎（先理1）

1. 活動目標

恒常的に取り組むセンターの整理整頓・備品管理・活動環境の改善などの他、リユース傘対応時のボランティア紹介・センター利用の宣伝を、より多くの学生スタッフができるようになるための具体的な仕組みを考える。

2. 活動内容

- ①アンブレラマーカーを活用して傘の管理を行なうことにした。また、昨年作成した対応マニュアルを活用して、リユース傘の未返却者へメールや電話で連絡を行なった。そして、年度末に学生スタッフへアンケートを実施し、傘の対応時にボランティア紹介やセンター利用の宣伝ができていたか確認した。
 - ②学生スタッフから“センターをもっとこうしてほしい、こうなったら活動しやすい”という声を集める目安箱を6月に設置した。目安箱に入った意見は全体に共有して話し合い、実現できるものを実行した。
- 〈目安箱に入った意見と対応〉
- チラシラックの分野ポップが壊れかけているため

直してほしい。

- 環境整備班でポップの補強を行なった。
- コードの際に来室者からボラセンネーム（ニックネーム）で呼んでもらえるよう名札の裏にボラセンネームを付けたい。
- ボラセンネーム記入用の紙を用意し、学生スタッフに書いてもらった。
- 瀬田学生スタッフミーティングの班活動の進捗共有をもっとわかりやすくしてほしい
- 幹部にジャムボードを導入してもらい、ジャムボードを活用して班活動の進捗状況を共有した。
- ③瀬田学生スタッフミーティングなどでセンターの環境美化のための呼びかけを行なった。また卒業式前の3月11日に大掃除を行なった。

3. 目標達成度

- ・リユース傘の管理や目安箱の設置により備品管理や活動環境の改善に取り組むことができたと考え。特に、アンブレラマーカーの導入は視覚的に傘の管理がしやすくなった。しかし、年間を通して学生スタッフスペースが汚く、整理整頓はできていなかったと思う。
- ・活動内容①で行なったアンケート結果より、約7

割の学生スタッフが傘の対応時にボランティア紹介・センター利用の宣伝が行なえていた。今年度の目標にしていた8割には届くことができず、これは宣伝ができるような具体的な仕組みを考えることができなかったためと考える。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・リユース傘にアンブレラマーカーを取り付けたことによって、一目で傘の貸出状況が分かるようになり良かった。しかし、アンブレラマーカーをどのように使うかを周知することが不十分であるため、貸出マニュアルをリニューアルする。
- ・学生スタッフが傘の対応時にセンターの宣伝を行なえるように、広報誌やセンター事業のチラシをひとまとめにして素早く来室者に渡せるようにするなど、具体的な仕組みを考えたい。

- ・今年度から目安箱を設置し、実際に要望に応えることで学生スタッフにセンター内の環境向上や学生スタッフ同士の連携につながったと感じてもらえた。しかし一方で、最近あまり意見が集まらないことや、目安箱によるセンターの変化があまりなかったという意見もあり、活用方法の見直しが必要だと感じた。また、学生スタッフだけではなく、来室者にも意見を入れてもらえるように改善したい。目安箱によりセンター内の環境が良くなったと思えるよう、改善を行ないながら来年度も継続して行ないたい。
- ・学生スタッフスペースの整理整頓を行なうために、学生スタッフ一人一人がきれいに使うという意識をもってもらうことが大切だと感じた。

〈報告者：土屋 朝揮〉

班 名	広報班（瀬田）
趣旨・目的	主に龍谷大学の学生に向けてボランティア情報等を発信することによって、ボランティア・NPO 活動センターの存在をアピールするとともに、ボランティア啓発を行なう。
班メンバー	中村あや（社会3） 三枝亜伽莉（農学3） 東郷真穂（農学3） 小橋未沙（社会2） 佐田穂花（社会2） 白川ひかる（社会2） 西野太洋（農学1） 堀内 薫（社会1） 池上寛悟（社会1） 林 慶輔（社会1） 根角心悠（社会1） 中園美紀（社会1）

1. 活動目標

前年度は、広報誌・SNS・掲示板のどの広報手段においても一人一人の意識が低く、単独での作業になってしまいがちであったため、目標に設定したような頻度での活動ができなかった。今年度は役割分担やスケジュール管理などを見直し、更新頻度を増やす。また、広報班だけでなく、他の班と協力しながら、広報誌・SNS・掲示板を通して学内外にボランティア・NPO 活動センターをアピールしたりセンターへ足を運んでくれる人を増やしたい。

2. 活動内容

【広報誌ボラボの日記】

年間4回の広報誌を作成し、配布した。

	印刷部数	配布部数	設置用
4月	500	400	100
6月	500	400	100
10月	300	250	50
12月	300	250	50

【SNS】

おすすめボランティア紹介や企画紹介、センター紹介等をX（旧 Twitter）と Instagram を使用し、以下のとおり発信した。

X ま と め	月	投稿回数	いいね	インプレッション	リツイート
	4月	11	112	16,628	16
	5月	7	65	5,884	3
	6月	12	127	10,499	9
	7月	13	105	13,271	8
	8月	8	56	5,546	3
	9月	8	20	3,095	0
	10月	17	87	8,679	8
	11月	4	29	3,210	3
	12月	12	68	6,254	8
	1月	8	23	2,863	2
	2月	2	6	1,285	0
	合計	102	698	77,214	60

インスタグラムまとめ	月	投稿回数	いいね	インプレッション
	4月	0	0	0
	5月	0	0	0
	6月	0	0	0
	7月	1	11	457
	8月	2	44	819
	9月	0	0	0
	10月	3	57	1012
	11月	6	73	1574
	12月	5	59	1275
	1月	1	13	227
	2月	0	0	0
	合計	18	257	5364

【掲示板】

イベントや季節に応じた飾りを広報班員のみならず、在室中の学生スタッフを巻き込んで作成・掲示を行なった。5月、7月、10月、12月に掲示板の装飾を季節に合わせたものにできた。

3. 目標達成度

SNS 更新頻度を増やすという目標は特に力を入れ、Xは102回、Instagramは18回の投稿を行ない大きく達成することができた。また、広報班員以外の学生スタッフと掲示板の装飾や、SNSの投稿内容を学生スタッフに考えてもらうなど学生スタッフ全体を巻き込んでセンターのアピールに取り組めた。しかし、来室者に記入してもらうボランティア相談受付シートの統計で、広報誌を見て来室してく

れた人が0名であったため、今後広報誌の工夫や見直しが必要だと考える。

4. 学んだこと・今後の課題

途中からミーティングを安定した頻度でできなかったため、今後は1か月分のミーティングの日程を予め決めておくなど早めの日程調整を目指す。

【広報誌】

一人の負担が大きくならないように役割を決め、各メンバーが広報誌の作成に参加することができたが、今後は内容の確認作業を円滑化させるために、役割設定やコーディネーターの確認の前に誌面改善のミーティングを行なう。また、Canvaやパワーポイントなどのアプリを使用する機会が多く、その経験を今後に活かしていきたい。

【SNS (X・Instagram)】

SNSの内容はコーデシフト中に学生スタッフが考える方針に変えることで、発信する情報量が増え、全員で取り組むことができた。しかし、SNSの運用方法を変えたことがうまく伝わっていないことがあった。原因の一つが変更点をLINEグループでしか共有しなかったことだと考えられるため今後、変更内容は瀬田ミーティングなど対面の機会に報告することが重要である。

【掲示板】

去年に比べて更新頻度が上がった。今後はより掲示板更新を安定させるために、シフト制を取り入れるなど工夫する。

〈報告者：佐田 穂花〉

班 名	発掘し隊（瀬田）
趣旨・目的	センターに寄せられるボランティア活動に参加して、活動の様子や魅力などチラシなどからは得ることができない情報を得る。また、それらの情報を視覚化してボランティア相談対応に活かす。
班メンバー	高橋慶多（社会4） 池本結希菜（社会3） 成川雅妃（社会3） 丸山汰一（農学3） 倉田若奈（社会2） 北野綺音（社会1） 蔵本千優（社会2） 関塚美帆（社会2） 木部美沙紀（社会2） 萩原千絵（社会2） 西垣風太（先理1） 西澤悠衣（社会1） 細見恭大（社会1） 安田 心（先理1） 吉永茉奈花（社会1）

1. 活動目標

従来は休暇中に団体を訪問していたが、学期中にも訪問してより多くのボランティア先を発掘し、その情報をより多くの人に届けることを目指す。

2. 活動内容

(1) 定例活動

8ヶ所9回のボランティア活動を行ない、各訪問先の情報や魅力、行ってみた感想などを伝えるため、発掘ノート作成や学生スタッフミーティングで発表した。

活動日	活動名	活動内容	人 数
7/1 7/5	伏見わっか朝市	朝市の会場準備や野菜の補充	3名
7/16	みんなの広場敦賀屋	子ども食堂の皿洗いや接客、子ども達との触れ合い	2名
7/16	宝ヶ池公園 子どもの楽園	野外活動で子ども達と触れ合う	2名
8/19	1DAY 清掃ボランティア	鴨川・下京センター周辺の清掃	2名
9/7	藤ノ木子ども食堂	子ども達との交流・食事	2名
9/20	ヤングリレーション 滋賀	ランニングパトロール	2名
9/24	シャボン玉飛ばし隊	シャボン玉で子ども達と交流	2名
10/14	多文化子ども食堂	様々な国籍の子ども達と食事など	3名

(2) 活動計画の活動

A. 発掘先の選定準備

コード中に情報を集めることが出来ず、ボランティア情報を選ぶ時期や訪問時期にも偏りが出来てしまっていた。学スタに向けたアンケートはとることが出来たが、まだ活用できていない。

B. 発掘ノートの改善

学スタに発掘ノートの改善点を聞き、目次や表紙の作成、分野別に整理する等の改善を行ない、新しい発掘ノートにまとめた。計画通り、発掘ノートを活動後2週間以内に作成した。また、よりスムーズに取りかかれるように、活動日が決まった段階で発

掘ノート作成日も決めるようにした。

C. 広報活動を活発にする

ボランティア参加後は必ず、学スタ SNS にボランティア情報と感想を投稿していた。しかし、活動してから投稿までに時間があいてしまった。

(3) その他の活動

- ・ボランティア先へ送るメールの定型文を作成して、活動主旨をスムーズに説明できるようにした。
- ・学スタが参加したボランティア活動について知ることができる「ボランティアノート」を作成し、学スタ全体と来室者に共有できるようにした。

3. 目標達成度

今年度の訪問先は限られていたものの、学期中にも訪問することが出来た。よって昨年度よりも、継続的に発掘し隊としての活動が出来ていた。さらに、発掘ノートの継続・改善、学スタ SNS の投稿をすることで前年度よりも多くの人に情報が広まったと考えられる。しかし、頻度や活動先・発掘ノート作成にかかる時間に課題がある。新鮮な情報を伝えるためにさらなる工夫が必要だ。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・これまで発掘ノートを手書きで作成しており、対面で集まっていた作業だったため、日程調整等の問題もあり、完成に時間を要していた。情報を新鮮なうちに提供するためにも、リモートでも作業ができる Canva やパワーポイント等を使って作成することも考えていきたい。発掘ノート作成日を事前に決めるということも定着させていきたいし、より良い方法について継続して検討する。
- ・ボランティアノートについてはまだ学生スタッフ内での認知度も低く、学生スタッフに自由に書いてもらうことが難しい。「コード中にやること」の中に追加する、テンプレートを決め気軽に書けるようにするなどの工夫が必要だ。現時点では、コード班と相談して工夫していく。

- ・発掘し隊の意義や目標の共有が十分ではない。どのような活動をするにも常に頭に入れて行動していきたい。そのためにも学生スタッフミーティングで確認する時間をとる等の取り組みをしていきたい。
- ・今年度は新しく POP 作りをし、発掘し隊がどのボランティアに参加したのか一目で分かるように工夫した。また発掘ノートを改善するなど今までしてこなかった新しい工夫をすることで、コーデの質や情報の整理などを考えるきっかけとなった。今後もこのような活動を継続することが大事である。
- ・発掘し隊ならではの活動が少ないように感じている班メンバーが多い。班の特徴や強みなどをミーティングで整理し、今後の活動について話し合う必要がある。
- ・班で抱えている問題や悩み事は、抱え込まずにいろんな人からアドバイスをもらうことで解決に向かうことが分かった。相談することで問題も整理され、大切なこと等が見えてきた。

〈報告者：倉田 若奈〉